

そらのとり

岩見沢聖十字幼稚園だより

2015年4月6日発行



ご挨拶

聖公会北海道学園 岩見沢聖十字幼稚園
園長 菊地 和子

お子様のご入園、ご進級おめでとうございます。保護者のみなさんも、園児のみなさんも、少しの不安といっぱいの希望で胸が膨らんでいることでしょう。

さて、この度、縁あって岩見沢聖十字幼稚園の園長を務めることになりました。

札幌ミカエル教会で洗礼を受け、北海道教育大学札幌校の特美・木材工芸科を卒業してから、芦別高校をスタートに豊富町や利尻町、稚内市の中学校で30年近く働いてきました。

大学の美術科では、北欧の幼稚園の優れた遊具や施設の工夫、雪の中でもたくましく遊ばせる子育てのようすを学んだことが、今でも強烈に心に残っています。

教員になってから渡った利尻島では、ちょうど産婦人科医が札幌に帰ってしまう週末に、助産師さんだけを頼りに、超・自然分娩で、親子とも幸せな出産体験ができました。

またその頃、長男が小学校に上がる時の預け先がなかったため、近所のお母さんたちと、毎晩子どもが寝静まる10時から会議を開き、町長さんや議会に働きかけ、学童保育をみんなで手分けして運営したりしてきました。町からの補助金と保護者の方からの保育料だけで、先生へのお給料や教材、おやつ、遊具、光熱費などをやりくりしていた経験が、まさかここに繋がっているとは、思いもしませんでした。。。

保育と言えば、ずいぶん昔、新聞で読んだ「はだし保育」にずっと憧れていましたが、中学校では真似することができませんでした。この、岩見沢聖十字教会の保育方針は、キリスト教の教えのもと、とにかくたくましく自然の中で体いっばいに遊んだり、その反対に茶道で静の時間を持ったりと、人間の「芯」の部分強く育てる工夫に満ちていて感動します。

おおがかりで大変な活動が多いのに、先生方や職員の顔がキラキラと元気に輝いていて、熱心で建設的な会議がしっかり進んでいくようすにも感動しました。聖十字の保育方針が大好きで、こどもたちのために大切だと思って集まってきた仲間だと感じました。

保護者のみなさんと先生方、聖十字教会のみなさんが、一生懸命創ってきたこのすばらしい幼稚園で、こどもたちが神様の愛の中で成長していけますように、微力ながら頑張ります。1年間、職員一同、どうぞよろしくおねがいします。



ご紹介

聖十字教会 池田 亨司 祭

今年も、聖十字幼稚園のチャプレンとして幼稚園に関わって下さいます。

このコーナーでは、今月の聖句について私たちに教えて下さいます。

今回はイースターで多忙の池田司祭に代わり、このおたよりの題名「そらのとり」に関わる歌と、イエス様のみことばをご紹介します。

♪そらのとりは ちいさくても

おまもりなさる かみさま♪

聖書：マタイによる福音書 6章 25-26節

自分の命のことで何を食べようか何を飲もうかと、また自分の体のことで何を着ようかと思ひ悩むな。命は食べ物よりも大切であり、体は衣服よりも大切ではないか。空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる。



人間の強い芯になる「希望」が語られているように思います。だいじょうぶ。ちゃんとかみさまが守ってくださいます。安心して一緒にすすんでいきましょう！



「サン・シストの聖母」

有名なラファエロの天使です。余り知られていませんが原画はこうです。天使の目線がお茶目ですね！